

# クラスタ内にある ESA の置き換え

## 目次

### [概要](#)

#### [クラスタ内にある ESA の置き換え](#)

#### [コンフィギュレーション ファイルのアップロード](#)

#### [既存のクラスタに新しいマシンを追加する](#)

## 概要

このドキュメントでは、クラスタ内にある Cisco E メール セキュリティ アプライアンス (ESA) を置き換えるための手順について説明します。

## クラスタ内にある ESA の置き換え

クラスタ内の ESA を置き換える方法は 2 つあります。

### コンフィギュレーション ファイルのアップロード

古いマシンから新しいマシンにコンフィギュレーション ファイルをアップロードした後、それを元のクラスタに追加します。

1. 古い ESA にログインします。既存のクラスタからマシンを完全に取り出すには、`clusterconfig > removemachine` と入力します。 `administrative disconnect` では不十分で、`removemachine` コマンドが必要になる可能性があります。
2. 古いマシンがクラスタから除去された後、次のいずれかの手順に従います。

GUI インターフェイスから [System Administration] > [Configuration File] に移動し、コンフィギュレーション ファイルをローカル デスクトップに保存して、[mask password box] のチェックを外します。

または、パスワード マスクを解除した状態でコンフィギュレーション ファイルを自分自身に電子メールとして送ります。

**警告：** パスワード マスクを解除しない場合、新しいアプライアンスにコンフィギュレーシ

ョン ファイルをインポートする操作は許可されません。

- 次にシステム セットアップ ウィザードで、基本設定を使って新しいアプライアンスをセットアップします。
- 新しいシステムをオンラインにして、クラスタ内の既存のマシンと同じ AsyncOS バージョンにアップグレードします。既存のマシンのバージョンを表示するには、コマンドラインで `version` と入力します。

**警告：** マシンを既存のクラスタに参加させるには、その前に同じ AsyncOS バージョンおよびビルドにする必要があります。

- 新しいアプライアンスをアップグレードした後、以前に保存された古いデバイスのコンフィギュレーション ファイルをロードします。GUI の [System Administration] > [Configuration File] ページでこれを行うことができます。
- 変更を保存します。

## 既存のクラスタに新しいマシンを追加する

2 番目の方法は、新しいマシンを既存のクラスタに追加することです。これにより、必要な特定のマシン設定 ( ネットワーク インターフェイスなど ) を維持しながらクラスタ設定を継承することができます。

- クラスタにまだ存在する任意の ESA にログインします。問題のあるマシンを既存のクラスタから除去するために `clusterconfig > removemachine` と入力します。 `administrative disconnect` では不十分で、`removemachine` コマンドが必要になる可能性があります。
- 置き換える必要のある古い ESA をシャットダウンします。
- システム セットアップ ウィザードを操作し、基本設定を使って新しい ESA を起動するために古い ESA と同じ IP アドレスであることを確認します。
- インターフェイスとリスナーの名前がクラスタ内の名前と一致していることを確認します。
- 新しいアプライアンスから、既存のクラスタに参加するために `clusterconfig` コマンドを入力します。 Secure Shell ( SSH ) またはクラスタ通信サービス ( CCS ) を介してクラスタに参加することを選択します。

```
ironport.example.com> clusterconfigDo you want to join or create a cluster?
```

- No, configure as standalone.
- Create a new cluster.
- Join an existing cluster over SSH.
- Join an existing cluster over CCS.

```
[1]> 3>
```

既存のクラスタにホストを参加させるには、次の要件を満たす必要があります。

- クラスタ内のマシンの SSH ホスト キーを検証できること。

- クラスタ内のマシンの IP アドレスを知っており、そのマシンに ( SSH または CCS 経由で ) 接続できること。
  - クラスタに属するマシン上の管理ユーザの管理者パスワードを知っていること。
  - 順方向および逆方向 DNS ルックアップを解決できること。
- 質問や問題があれば、サポートにお問い合わせください。